

2020年9月26日

山口西田読書会 2020年9月19日のプロトコル

田中克典記

1. 表現作用 6 第7段落 167頁5行目～10行目
2. テキスト解釈

プロチヌス

生成する物の本質は叡智的なものへの絶えざる運動

(生成する物は、理想を追い求める、そしてそこには終わりが無い)

生成する物から未来を取り去ればその存在を失う

(生成するもの(生命運動)は時の経過の中で、未来に向かって成長する。その未来がなくなれば、成長の目標が維持できなくなる。存在の意義を失ってしまう。)

永遠なるものに未来を加えれば却ってその存在を失う

(動かないものに動きを与えようとすれば、その存在を失う)

西田

時に於いて生成する物は所謂実在界でなければならぬ

(時の動きの中で生成するものは目に見えるもの)

生物的発展の作用、意識作用は時の方向を離れることができない

(生物は時と共に成長する)

意志作用は時の方向を離れることができない

(理想を求めることは、時の流れの中で発展する)

意志が、意志自身を否定して、その元に還った時、永遠なる実在となる

(ここでは)時は永遠なるものの影となり

(理想を求めること、理想自身を否定して、自己自身に戻ったとき(転換)、動かないものになる。

ここに至って、時は動かず、その動かないものの影になる。ここにおいて完全なる表現作用となる)

作為は不完全なる表現と考えることができる

(時が動いている状態では、表現としては不完全)

(哲学的問い)

*完全なる表現作用・不完全なる表現作用

完全、不完全という書き方をする意味(目的)はどこにあるのか?

Cf

言語に於いては、意味と言語との結合が偶然的なるが故、表現作用として不完全(P163 5~6行目)

芸術は(作為して作為せざる立場になり得ることで)言語より一層完全なる表現(P163 11~12行目)

自然は言語と同じくアイデアの不完全なる表現(p163 13行目)